

あんぜん あんしん のうさくもつ かんきょう のうぎょう
安全・安心な農作物 環境にやさしい農業

農作物は、生育の途中で昆虫に食べられてしまうことがあります。農作物の成長を邪魔する昆虫を「害虫」といいます。害虫が増えれば、収穫量が減ったり、品質が落ちたりして売ることができなくなります。この被害を防ぐために、農薬を使い害虫を退治する方法もあります。しかし、より安全・安心な農作物を作るため、フェロモン剤、害虫誘引粘着シート、防虫ネットなどを利用することによって、農薬を使わない栽培、農薬を減らす栽培に取り組むことをすすめています。



さい
フェロモン剤

昆虫のメスがオスを呼び寄せるフェロモン(臭いを出す物質)を人工的に作ったもの。これを畑に置き、害虫をおびきよせて捕まえたり、本当のメスがどこにいるか分からなくさせてしまい害虫の交尾を妨害し次世代の害虫の数を減らします。松戸では、キャベツ、だいこん、かぶ、ねぎ、梨などで使われています。

この容器に害虫をおびきよせます

がいちゅうゆういんねんちやく
害虫誘引粘着シート

アブラムシなどの害虫が好きな黄色など、特定の色でおびき寄せ、ハエ取り紙のような強力な粘着板にべたべたくっつけてとらえます。



ぼうちゅう
防虫ネット

蚊帳のように作物をネットで覆い、飛んでくる害虫を寄せつけないようにします。



てんてき
天敵

害虫や害虫の卵に寄生したり、害虫を食べてしまう昆虫や害虫を病気にかからせて退治してしまう微生物のこと。アブラムシを食べるテントウムシやクサカゲロウなどがよく知られています。

まっど
 の
 のうぎょう
農業



まつど のうさんぶつ 松戸の農産物

まつどし としん けんない けんない そうめんせきやく じんこうやく まんにん とし
 松戸市は都心から20km圏内にあり総面積約61.38km²、人口約50万人の都市でありながら、
 のうちめんせき のうぎょうしゃすうやく にん やさい かじゆ せいざんち としのうぎょう てんかい
 農地面積468ha、農業者数約1,300人、野菜・果樹の生産地として都市農業を展開しています。



なし まつどの梨



まつど めいじじだい なし とくさんち にじっせいきなし げんざんち し
 松戸は明治時代から梨の特産地で、二十世紀梨の原産地として知られ
 ています。二十世紀梨は八柱村(今の松戸市大橋)の松戸覚之助少年
 とうじ さい しんるい いえ す ば ぐうぜんみ なえぎ そだ ねんご
 (当時13歳)が親類の家のごみ捨て場で偶然見つけた苗木を育て、10年後
 に収穫に成功したものです。現在、市内では、幸水、豊水、かおりなど多数
 ひんしゆ さいばい
 の品種が栽培されています。

まつど 松戸えだまめ

まつどし けんない ゆうすう えだまめせいざんち しないぜんいき ちゃまめけい あおまめけい
 松戸市は県内でも有数の枝豆生産地です。市内全域で、茶豆系、青豆系の
 たひんしゆ せつきよくてき さいばい し まつどさん えだまめ えら
 多品種が積極的に栽培されています。市では、「松戸産の枝豆だから」と選ばれ
 ることを目指し、ブランド化を推進しています。出荷規格、鮮度管理、生産管理等
 めざ けい が すいしん しゅつかきかく せんどかんり せいざんかんりとう
 を定め、条件を満たした松戸産の枝豆を「松戸えだまめ」と呼んでいます。



あじさいねぎ



あじさいねぎは松戸市北部(小金地区周辺)で栽培される葉ねぎです。
 せいざんち あじさい ゆうめい ほんどじ であ
 生産地にある紫陽花で有名な本土寺(あじさい寺)にちなんで「あじさい
 ねぎ」と名付けられました。味わい深く、彩りが
 あざ なづ あじ ふか いろど
 鮮やかなことから「味彩(あじさい)ねぎ」と呼ぶ
 ひと こきみよ
 人もいます。シャキシャキとした小気味良い
 しよつかん ふか かお から とくちょう
 触感とやわらかさ、深い香りとうま味が特徴です。



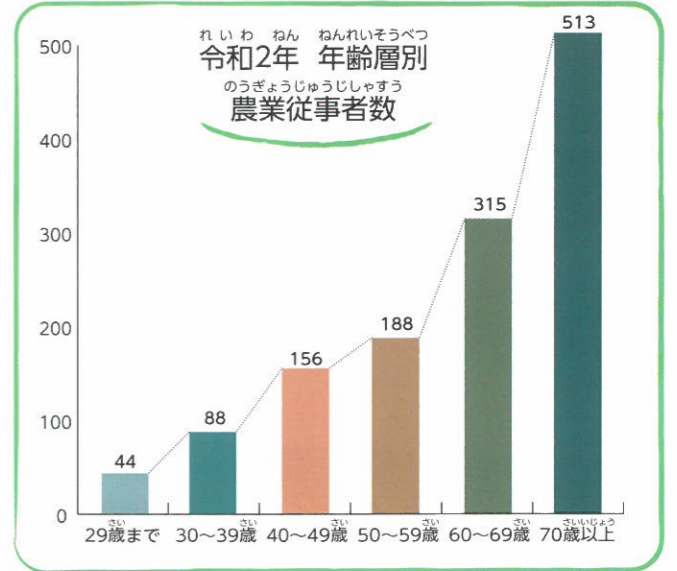
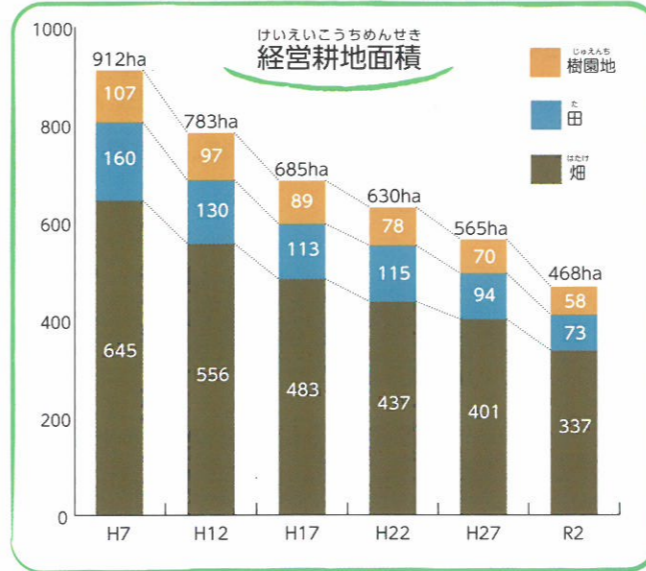
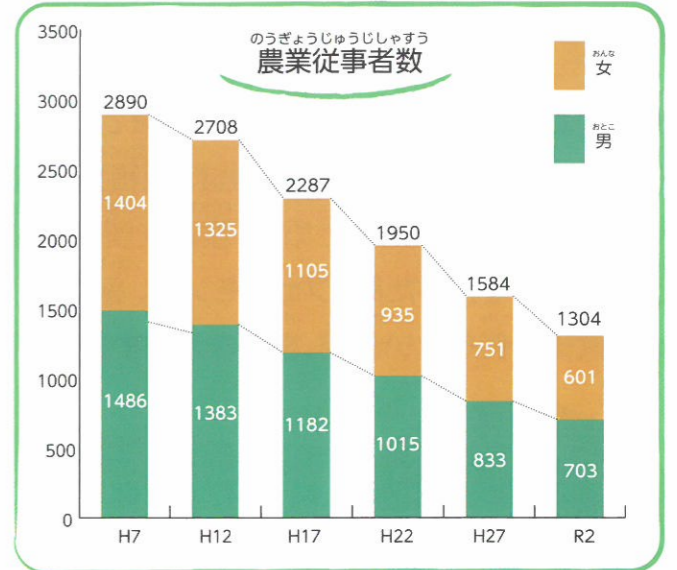
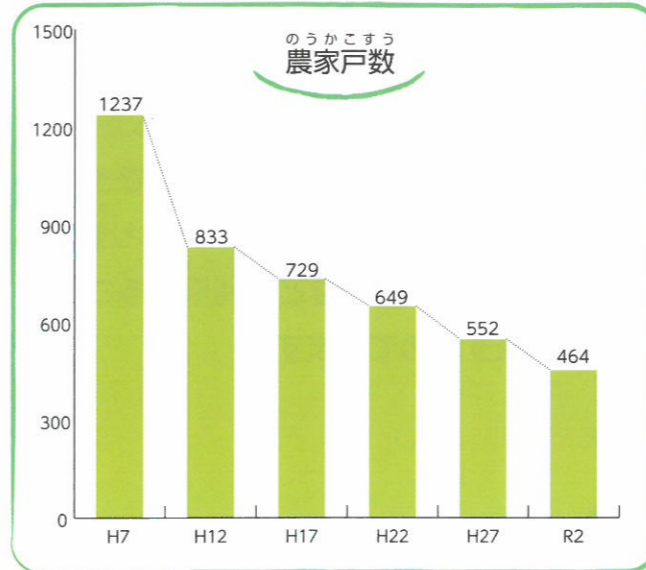
やきり 矢切ねぎ

やきりちく ほんかくてき さいばい めいじ ねんご
 矢切地区でねぎが本格的に栽培されるようになったのは、明治3、4年頃
 いま とくぎょうとうこうとうく きゅうすなまち せんじゆ たね ゆず
 といわれています。今の東京都江東区(旧砂町)から「千住ねぎ」の種を譲り
 う さいばい えどがわ こうずい ほんらん じょうりゆう はこ
 受け栽培したところ、江戸川が洪水で氾濫したときに上流から運ばれた
 すな つち ま さいばい てき ねんねんざくつ
 砂と土がちょうどよく混ざり栽培に適していたことから、年々作付けも
 ふ めいじ ねんごら しじょう しゅつか
 増えて明治12、3年頃からは市場へ出荷されるようになりました。旬の
 じき あき ふゆ すや なべとう おい め あ
 時期は秋から冬で、素焼きや鍋等で美味しく召し上がれます。



のうぎょう げんきよう 農業の現況

しゅつてん ねんのうりんぎよう
 出典: [2020年農林業センサス]



のうさんぶつ とりく 農産物への取組み



まつどさんののうさんぶつ 松戸産農産物ブランド シンボルマーク 「みのりちゃん」

松戸市では、松戸市で採れた野菜や果物にシンボルマーク(みのりちゃん)や、キャッチフレーズ(松戸いきいき地場野菜・果実)を付けて売ることによって、多くの人たちに松戸の農産物を知ってもらうために「ブランド化」を進めています。

- 「みのりちゃん」マークやキャッチフレーズを付けることのできる農業者(農家さん)は、
- 松戸ブランド農産物を育てるやる気があること
 - 環境にやさしい育て方をし、農薬をできるだけ使わないようにすること
 - 上手に農産物を育てる技術があること
 - 農産物をいつどのような農薬や肥料を使って育てたのか、きちんと記録すること

がすべて出来る農業者に限られています。

「みのりちゃん」のロゴマークは、平成16年2月20日に商標登録されています。

「みのりちゃん」は安全・安心な松戸の農産物の自印です!